

らちめん古墳

伊勢原市教育委員会

らちめん古墳は三之宮比々多神社の本宮があったといわれる三ノ宮字宮上、現在の恵泉女学園大学の用地内に位置します。この地について、江戸時代に書かれた『新編相模風土記稿』では「埴免（らちめん）」と表記されています。

古墳は昭和41年の校舎建設に伴って発見され、國學院大學により大型の横穴式石室の調査が実施されました。その結果、銀装の大刀、金銅装の馬具、銅鏡、鉄鏃等が出土しました。銀装大刀は柄部分に細い銀糸が巻かれ、^{さや}鞘にも銀の飾り金具が装着されています。金銅装の馬具には、同じデザインの飾り板をもつ^{くつわ}轡と^{ぎょうよう}杏葉、木製の鞍を飾る^{くら}金銅の金具、鉄製の吊り金具の所在から木製の^{あぶみ}鐙が伴っていたと考えられます。特に鞍金具は県内出土3例のうちの一つ、金銅装の鏡板付轡も相模地域では他に登尾山古墳に例をみるのみです。その副葬品は登尾山古墳と並び、相模国を代表する内容といえます。

また、平成12年に実施された校舎建て替えに伴う調査では、墳丘の一部と周囲に巡る周溝が確認され、らちめん古墳が直径40mの規模を有することが明らかになりました。

さらに、平成14年には東海大学考古学研究室と伊勢原市教育委員会により、石室の再調査が実施され、石室の測量図面が作成されました。また、國學院大學の調査時の出土状況等も確認されました。



埴免古墳の位置

石室は、恵泉女学園短期大学の校舎のわきに現在も保存されています。



金銅装の鞍

木製の鞍に装着された金銅製の鞍金具です。



銅鏡

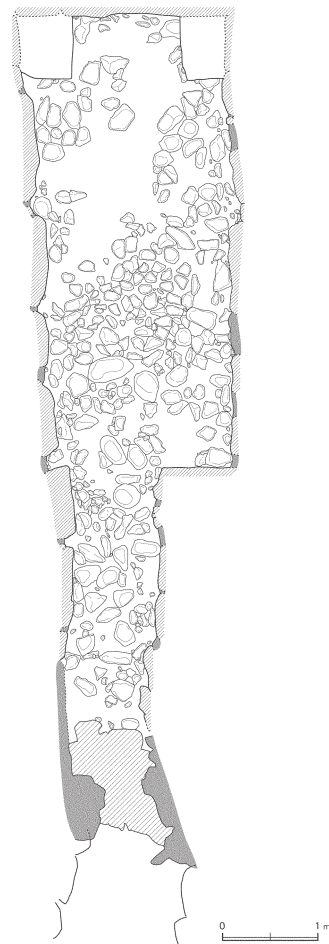
直径8.5cmの小さな鏡です。



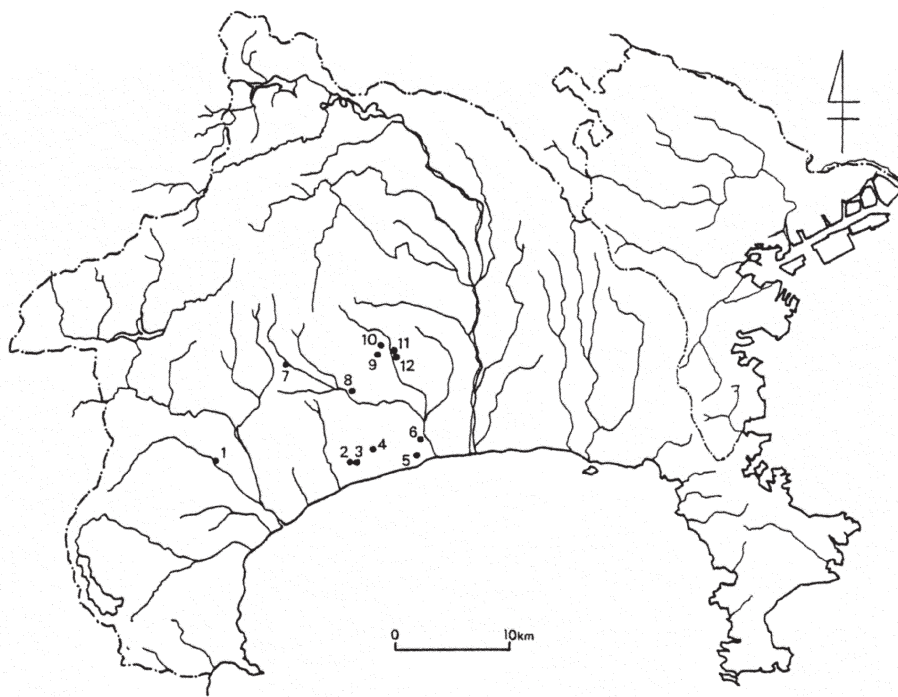
鏡板（上）と杏葉（右）
馬の轡に着く鏡板と、馬の胸や腰の部分を飾る杏葉は同じデザインです。

神奈川県内、特に相模地域において金銅装馬具の出土状況を見たものが下の図です。相模地域の出土例は13例を数えますが、その多くは帯金具や辻金具といった馬に轡や鞍を固定する革帯に用いる小さな部品です。鏡板付の轡や杏葉、鞍金具の出土は限られており、南足柄市の塚田2号墳、平塚市の高根横穴墓群8号墓、そして、伊勢原市のらちめん古墳、登尾山古墳となります。特に相模川以東に分布が見られないこと、伊勢原の三ノ宮地域に集中することが特筆されます。なかでもらちめん古墳の鞍は事例の少ない貴重な資料とすることができます。

以上のように、らちめん古墳は墳丘の規模、石室の大きさ、副葬品のすべてにおいて、相模国一と云っていい内容を備えています。登尾山古墳と並び、6世紀後半から7世紀頃にかけて、相模国を治めた最高権力者を葬るにふさわしい古墳といえるでしょう。

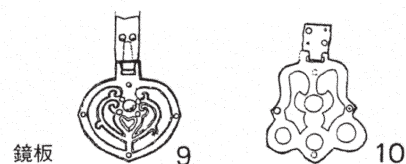


石室の全長は9mで、幅1mの細い通路の奥に遺体を納める部屋（玄室）があります。その大きさは幅2m、長さ4.8mを測ります。通路から右側だけに玄室の幅が広がる片袖式という形式です。大きな石を使っています。



相模国領域出土の金銅装馬具

No.	遺跡名	種類
1	塚田2号墳	しおで金具、鞍金物
2	諏訪脇西9号横穴墓	帯金具?
3	諏訪脇C6号横穴墓	帯金具
4	下田6号横穴墓	しおでの座金具?、二脚版
5	前谷原横穴墓群	辻金具
6	高根8号横穴墓	花形杏葉、雲珠
7	桜土手38号墳	辻金具、帯金具
8	曾屋大字斎ヶ分	雲珠、辻金具
9	登尾山古墳	鏡板付轡、杏葉、雲珠、辻金具、帯金具、二脚版
10	らちめん古墳	鏡板付轡、杏葉、鞍金物
11	三ノ宮3号墳	雲珠
12	鈴川古墳	雲珠、カコ



相模地域における金銅装馬具の分布